



書道家
武田双龍



先月の「イカす人・綺麗な人」珠玉の言葉
片山恭一

×



第二十三筆

明鏡止水

これは、私が習っている剣道の先生が常に仰っている言葉です。私はもちろんこの境地には及び難く、鏡はいつも曇っているし、心という水は波立っています。今の日本の社会において、「明鏡止水」の如く生きるのは難しいかもしれないですが、そういうところを目指すことによって、例えば自分の身体や人との関係における“感受性”を磨くということにも繋がると思うんです。剣道でも達人は、剣を構えたときに相手が何を考えているのかが分かるといいます。人間付き合いでは竹刀を交えるわけではないけれど、相手がどういう気持ちなのか少しでも分かるようになれば、「この人と一緒にいると心地いい」と思われるようになるはず。遠い目標として、こういう境地に至れるといいな、と私は考えています。

武田双龍

力みを捨て去った上で、一点の曇りのない湖面を想って書きました。

昭和五十九年熊本県生まれ。
三歳より書を学び始め、母・武田双葉に師事。
書道家・武田双雲は実兄。書道教室 ふたばの街を開講。
テレビや新聞、雑誌など幅広いメディアで活動中。
<http://so-ryu.com/>